

ISO14001 の認証を取得して

ナチピリピナス (NPI)

社長

八重崎信好

ナチピリピナスは従業員 60 名足らずのドリル製造工場ですが、'96 年に JIS と ISO9002 を取得いたしました。

その当時から、ISO14001 という環境に関する規格が制定されることが新聞記事で報じられており、中身も良く知らないまま、次にはそれに挑戦したいと思ひ漠然と考えておりました。

フィリピンに初めて赴任したときの印象は、街はゴミだらけで川には汚水が流れ放題で、公害問題が騒がれた昭和 40 年代の日本以上の荒れ様でした。

日系企業は公害をもたらすような仕事を持ち込んだ、ともいわれており、その中で少しでもフィリピンに喜ばれる会社になりたいと考えておりました。

JIS や ISO9002 は日本人が主体になって取得しましたが、ISO14001 については現地スタッフに自信をつけさす意味でも、また我々のような小さな企業でも全員が一致協力すれば、大企業に負けない活動が出来ることを現地人マネージャーやスーパーバイザーに体得させたいと思ひ、挑戦することといたしました。ISO9002 は JIS の資料を参考に 4 ヶ月の短期間で認証を取得できましたが、ISO14001 の方は容易ではないと予想されましたので、まず 1 年間で取得する計画をたて'97 年 4 月からスタートいたしました。

まず最初に私自身が ISO14001 の何たるかを理解するためと、審査では何をやるかを知るために、審査員資格取得セミナーに参加いたしました。

当時フィリピン国内には審査の主査になれる資格取得者がいなく、審査を受けるとなると外国から主査を招くという状態でした。

相い前後して、フィリピン政府主催で ISO14001 取得のパイロット企業募集があり、これに中小企業でただ一社応募し、マネージャーに 6 ヶ月間にわたる取得促進セミナーを受講させました。

この 6 ヶ月の講習期間内に社内規定を完成させようとしたが、ISO 規格の意味自体が良く理解で

きず、戸惑いもありましたし、日本と違って参考書等は全く無くまさに手探りでした。

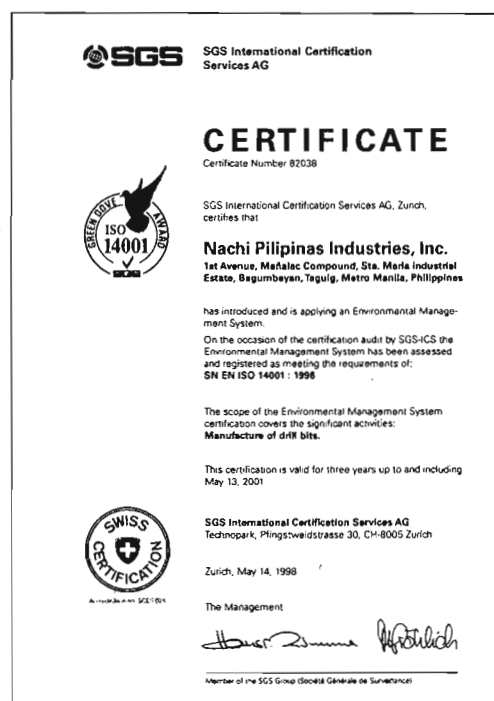
法令の要求事項を整理しようにも、関係官庁へ何度も足をはこび、関係者の間をたらい回しにされたあげく、結局情報を得ることが出来ないことも何度もありました。

話を聞きに行っても要領を得ず、逆にこちらがいろいろと質問を受けるしだいで、残念ながら参考にはなりませんでした。

ちょうどこのころフィリピンで初めての主査の資格取得者が誕生したのを機会に、当社の進め方を見て貰うためその人に予備審査を受けてみました。

結果は散々で 100 項目以上の指摘を受け、正直自信を失い掛けました。

年末のクリスマスシーズンにさしかかったこともあり、1 ヶ月くらい中断しましたが、年明けには気



認証状



NIPの受賞記念

持ちを取り直し、3月末までに規定を再整備し、4月に書類審査を受け、5月には本審査を受けるという目標をたて、審査申請しました。

詳細な日々の日程表まで作成し、毎日午後から関係者が集まり準備を行いました。

ときどき審査員の資格を持った人に助言をいただきましたが、大半の作業を社内のメンバーで行いましたので、現地スタッフの自主性も身についたと思っております。しかし、準備には非常に時間がかかり、全ての作業が完了したのは書類審査前日の深夜でした。

書類審査では規定の不備を数件指摘されたものの、書類審査合格となり、5月13日には最終審査を受けることになりました。



ISO14001に合格した現場の写真

喜びも束の間、1ヶ月後に迫った本審査までに残された作業が非常に多く、毎日毎日が計画と実績のにらめっこで本審査当日を迎え、神に祈る様な気持ちで審査を受けました。

その日はなかなか時間が経たず、非常に長い一日でしたが、審査が終わり、開口一番“認証されます”と聞いたときは、まさにやって良かったと心底から思いました。指摘事項は小さな点についてですが6件ありました。

ISO14001はこれからが始まりですし、毎年さらに改善することが必要になってきます。

今回の私どもの活動により、従業員全員に自主性が芽生え、フィリピンで15番目位の早い認証で、小さな会社でも一生懸命やれば大企業に負けないという自信もつきましたし、NACHIに対する誇りと信頼の念も持ってくれるようになり、本当に良かったと思っております。